



男女共同参画情報コーナー
わたしたちの望む社会へ



皆さん 男女共同参画という言葉をご存知ですか。
薩摩川内市では、平成 17 年 4 月「男女共同参画基本条
例」を施行しました。この中で、一人一人の人權が尊重
され、多様な生き方が選択でき、個人の多様な能力が発
揮される社会を目指しています。
※「とらいあんぐる」とは、参画(さんかく)と三角(さんかく)を掛け
ています。「市民・行政・地域」「教師・児童生徒・保護者」「上司・
部下・自分」etc…。いろいろな社会において、常に三者(三角)
の関係はとても大切です。お互いがトライアングルのように響き
あいながら、理解し合えるような社会を築けるようにとの願いが
込められています。

Q2「性別にかかわらず」とはどう
いうことですか。
A2ありのままの、その子らしさを
受け入れることです。

私たちは、「女は議を言うな」「男の
くせに言い訳なんかするな」と、子ど
もの話に耳を傾けず、ありのままの
その子らしさを受け入れないことが、
実は多いのではないのでしょうか。
「女らしさ、男らしさ」の押し付け
や、他者との比較は、その子の個性を、
ひいてはその子自身を否定すること
につながります。大人の期待する理
想の「子ども像」に傷つき、自分の気
持ちは押し殺したり、偽りの自分を
演じようとしたりする子ども少なく
ないのです。自分の気持ちは自分のも
の。その子が感じた気持ちを表すこ
とは、自己表現のためには大切なこ
とです。

男女共同参画と [特集] 子どもの人權

この特集は、とらいあんぐるの編集員である鹿児島
純心女子大学学生サークルS&Iの室屋いさんと
隈元里紗さんの企画・執筆によるものです。

Q1 どうすれば自尊感情は育まれる
のですか。
A1 それは、その子の話を「聴く」こ
とです。

普段、子どもたちが感情や考えを
最後まで話しきることを待たずに、
私たちは答えや結果を出そうとして
いることが多いのではないでしょ
うか。
「聴く」とは、心で聴き、相手の心
を聴くことをいいます。途中で遮る
ことなく、否定することなく、共感

「自分は生まれながらにして、生きているだけ
でも価値があり尊い存在なのだ」という自覚は、
その人自身の生きる力の源となります。しかし、
私たちは、いつの間にかその尊さを忘れてはい
ないでしょうか。
子どもは「性別にかかわらず」、大切に育て
られる権利があります。そして、大切にされる
ことによって初めて、自分がかけがえのない存
在であることを認識でき、そのことから他人を
尊重できるようになります。自分のことを大切
に思う自尊感情の育ちなくして、他人の尊重は
不可能なのです。

私たちは、一人一人、個人として
存在しています。性別にかかわりな
く、一人一人が自分を主体的に生き、
その個性を発揮でき、人權を尊重さ
れること。それが、男女共同参画社
会が目指すものです。

「性別にかかわらず子どもの話を最後
まで聴く」に関して、具体的なエ
ピソードを集めたので、紹介します！

「聴いてくれた」ことで、
安心できた

小学生の時、夏休みの創作課題を

しながら最後まで聴くことによって、
向き合ってくれている大人がいる、
大切に扱われていると、子どもたち
は実感するのです。このことは、そ
の子の人權を尊重することにもつな
がります。
また、親や周囲の大人に話を聴い
てもらうことによって、子どもたち
は自分の気持ちを言語化しようとし、
コミュニケーション能力が高まりま
す。例えば他人から何か嫌なことを
された時に、「自分はこんなことをし
てほしくない、やめて欲しい」と、相

手に率直に自分の意思を伝えて、自
分の心と身体を守る時に生きてくる
のです。



大学生になり、彼氏に自分の考え
を伝えられず、悶々とした日々を送っ
ていました。母に聴いてもらえた経
験は、彼氏とのぎくしゃくした関係
に対し、「私って大切にされてないの
かな」と気付くきっかけになりました。
このままではいけないと思い自分の
気持ちと向き合い、率直にその気持
ちを彼氏に伝えました。
(20代女性)



「聴いて欲しい」という
気持ちを奪われる

手伝うという約束を母としていまし
た。しかし、母の仕事が終わらず、
結局寝る時間に。創作が進まないこ
とで不安になり、寂しさを抱えてい
ました。寝る前、上手くことばには
出来なかつたけれど、自分の不満を
母にポツリポツリと伝え、母は私の
話を遮らずに最後まで聴いてくれま
した。
途中で否定されることなく話を聴
いてもらえると、それまで不安だっ
た気持ちが徐々に落ちついていきま
した。全て聴き終わった後、母が「お
母さんのことを待っていてくれたの
に、ごめんね」と謝ってくれました。

幼い頃から続く、「だめなやつ」「殴
るぞ」といった父からの度重なる暴
言。「家長である自分に逆らうな」「妻
や子どもは父親の言う事をきくべき」
といった態度に抑圧されてきました。
その日学校であった出来事、友達や
部活の事、悩み事を話したいと思っ
ても、家族が父から暴言を浴びせら
れているのを見聞きして、何も言え
ない日々が続きました。いつしか、「自
分の話を聴いて欲しい」と思えなくな
りました。また、身体が弱い兄と比